

谷口誠先生のご逝去を追悼する

李 鋼哲/INAF 所長

去る1月14日、我々の敬愛し尊敬する谷口誠先生の訃報に接し、悲痛の思いを禁じえませんでした。93歳になられていましたが、私には父親が亡くなったような悲しみを覚えました。

今年1月1日早々石川県に大きな地震が発生し、能登半島を中心に甚大な被害がでました。私が住んでいる金沢市内は大きな被害はありませんでしたが、恐怖を感じました。そこに夕方6時ごろ谷口先生から安否確認の電話がありました。「李さん、大丈夫？地震で最初に思い出したのが李さんだったよ」と。優しさを込めた声で最後に「気を付けてくださいね」と励ましてくれました。私は感激し涙が出ました。

谷口先生は、INAF の最高顧問だからだけではありませんでした。INAF 設立準備のため 2020 年 9 月に、私は谷口先生に電話で設立趣旨を説明し、最高顧問をお願いしましたが、「李さんはやっていることは何でも協力するよ」と快く承諾してくれました。それ以来ことあるごとに電話で相談しました。通話時間は 30 分から 60 分くらい長い電話でしたが、私にとっては、先生との会話は、先生が豊富な人生で得られた経験と知恵を学び取る貴重な時間でした。

2006 年 1 月 28 日、私は NIRA (総合研究開発機構)に勤めていたときですが、日本国内の 4 つの研究機関の代表と北東アジア研究の主要な専門家・活動家の皆さまが集まって生まれた「北東アジア研究交流ネットワーク」(NEASE-NET: Northeast Asian Study and Exchange Network) の設立大会が開かれました。NEASE-NET は NIRA の塩谷隆英理事長(当時)のイニシアティブで立ち上がったもので、会場は NIRA の会議室でした。谷口誠先生が代表幹事に就かれ、4 つの研究機関長が副代表幹事を務め、私は事務局長を指名されました。

それ以来、谷口先生と私との交流は頻繁なものになりました。その頃、谷口先生は岩手県立大学の学長になられていましたので、第 1 回 NEASE-NET フォーラムを岩手県立大学で開催することになり、谷口先生と塩谷先生と私が中国駐日大使館に出向いて、王毅大使(現中国外交部長・國務委員)に基調講演をお願いしました。王毅大使は快諾下さり、盛岡で王毅大使を交えた親交がありました。その後、NEASE-NET フォーラムは毎年全国各地で開催されましたが、そのたびに谷口先生といつも一緒に行動しましたので、先生との信頼関係はとても強いものになりました。

その他、私が金沢の大学に赴任してからは2回ほど先生に講演をお願いし、そのたびに奥様とご一緒に金沢に来られました。講演会終了後は私が白山や白川郷などを車で案内して観光地を訪れながらの交流もできました。

また、金沢に来られた際は、岩本壮太・元石川県副知事・参議院議員 (INAF 顧問)にお会いし、3家族揃って卯辰山の料亭で懐石料理を堪能したこともあります。谷口先生と岩本先生とはかつて同じ時期に日本駐フィリピン大使館で勤務されたことがあり、久しぶりに旧知に会って話を弾ませておられました。私は金沢に来て以来、岩本先生とは酒飲み仲間のような関係になりましたので、谷口先生はお電話するたびに「あの男、岩本さんお元気かい？」と尋ねられていました。

私が初めて谷口先生にお会いしたのは、1996 年でした。当時、私は立教大学大学院で開発経済学を学んでいて、豆満江国際開発研究をしていましたが、成蹊大学で国際開発講座が開講さ

れるというので、私はそれに申し込んで参加しました。その講座は谷口先生や S.フレルバータル・モンゴル駐日全権大使など著名な講師による講義を聴くことのできるシリーズ講座でした。私は、人生で初めて外交官に出会う幸運に恵まれました。その後、深い縁が続いたのは谷口先生とフレルバータル大使でした。お二人とも INAF 設立とともに最高顧問を快く引き受けてくださいました。ところが、フレルバータル大使も昨年9月に逝去されてしまいました(窪田新一理事に偲ぶ言葉を寄せて頂きました)。INAF は2年間続けてお二人の顧問を失うという大きな悲しみに接することになってしまいました。

谷口先生には、ここに謹んでお悔やみ申し上げます。先生は私の心の中にいつまでも残ると同時に、INAF の精神として遺志を継いでいく覚悟でおります。安らかにお眠りください。(2024.4.20)

谷口 誠先生の略歴



タニグチ マコト(Taniguchi Makoto)先生

1930年3月31日生 2024年1月14日逝去(93歳)

日本の外交官、経済学者。専門は南北問題・国際経済。国連貿易開発会議議長、日本人として2人目のユニセフ議長、国連大使、日本人初 OECD 事務次長、早稲田大学教授等を歴任。

大阪府出身。一橋大学大学院経済学研究科修了後、1958年にケンブリッジ大学を卒業し、新渡戸稲造にあこがれ、1959年外務省入省。1960年にはケンブリッジ大学で修士号を取得。

国際連合新再生エネルギー会議議長や、国際連合貿易開発会議議長、日本人としての2人目のユニセフ議長、国連大使や日本人初の OECD 事務次長を務めた後、早稲田大学教授、天津外国語学院客員教授等を歴任。2009年岩手県立大学第2代学長を退任し、いわて県民情報交流センターで新渡戸国際塾設立会議を開き、同塾長。

国連や OECD などでの経験を生かしたグローバルな視点が持ち味。ちなみに学長を務めていた岩手県立大学の学食には、谷口誠の名前から由来する、「まこちゃんラーメン」というメニューが存在する。2000年勲二等瑞宝章受章。2014年東久邇宮記念会東久邇宮国際文化褒賞受賞。

日本による対韓輸出優遇撤廃に反対する、<声明>「韓国は「敵」なのか」呼びかけ人の

1 人。2019 年瀬戸内寂聴、千玄室、伊藤雅俊らと「東アジア不戦推進機構」を設立。
2006 年1月～ 北東アジア研究交流ネットワーク(NEASE-NET) 代表幹事
2017 年 4 月～一般社団法人アジア・ユーラシア総合研究所代表理事
2020 年 10 月～ 一般社団法人東北亜未来構想研究所最高顧問
2024 年 1 月 14 日、93 歳逝去。逝去日付をもって正四位に叙された。